

憲法しんぶん 速報版
 発行 憲法改憲阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2018年6月28日 (木)
 NO. 870号 本号3頁

国民投票改正案 与党と維新・希望の4党で提出 一慣例壊し、与党のみで憲法審査会を開催する動きも一

27日、自民、公明、維新の会、希望の党の4党は、憲法改正を問う国民投票法の改正案を国会に提出しました。27日正午に衆院憲法審査会の与野党の担当者による懇談会を開きましたが、森友・加計疑惑を巡る与党の国会対応に怒り、立憲民主や国民民主などの主要野党は欠席しました。このため立憲民主党や国民民主の野党にも共同提出を呼びかけていましたが、共同提案は見送られ、4党での提案となりました。与党は、今国会での成立をめざす考えです。

前号で紹介しましたように、何としても憲法審査会を動かし、党の改憲4項目の条文素案を披露し、議論させたい自民党は、改正公職選挙法の内容を盛り込む改正案を提案してきました。

改憲そのものに反対する共産党、社民党を除く与野党は、5月末にはテレビCM規制などを検討することを前提に、大筋合意していました。ところが、終盤国会での与野党対立のあおりを受け、審査会が「与野党合意の運営」を慣例としていたため、憲法審査会での質疑に入れませんでした。

自民党の中谷元与党筆頭幹事は「改正案の国会提出は28日がデッドライン」と明言し、与党内には「改憲の中身の対立ならまだしも、国会を1ヵ月延長して国民投票法改正もしないのはあり得ない」との声が広がっていました。このような中での4党による提出となりました。

野党の方では、立憲民主党の辻元清美国会対策委員長は「改憲論議の環境が整っていない」として、憲法審査会の開催自体に反対しています。また、国民民主党内では共同提案に前向きな意見もあるものの、「大臣の間責決議案を出しているタイミングで共同提出に乗れない」として立憲民主党らと歩調を合わせる方針です。

なお、何としても衆院憲法審査会を開催したい与党は、28日に野党側の同意がないまま、与党だけでも開催する方針をいったん決めました。しかし、野党側の反発が強まったとして、28日の審議入りは見送りました。

ここでもウソ! 米軍F15の那覇沖墜落 首相「飛行中止申し入れ」 米軍は要請を否定

今月11日に米軍のF15戦闘機が訓練中に那覇市の約120キロの洋上に墜落し、パイロット1人が重傷を負った事故が起きました。その事故に関連して、安倍首相が25日の参院予算委員会で事実と異なる答弁をしたことが波紋を呼んでいます。

25日の参院予算委員会で、立憲民主党の福山哲郎氏が「原因究明や再発防止策が不十分なまま米軍機が飛行を再開している」と追及。これに対して首相は「米側に安全管理、再発防止の徹底を強く申し入れ、米側は徹底的に点検のための訓練飛行を中止した」と答弁。さらに改善策を問われた際に「今回についても(飛行)中止について我々が申し入れを行い、(米側が)中止をし、点検したと承知している」と述べました。



ところが、在日米軍司令部は朝日新聞の取材に「嘉手納基地を含め、在日米軍ではそのような飛行中止の要請は受け取っていない」と回答しました。

防衛省は首相答弁の確認に追われ、米側に同型機の飛行停止を「申し入れた」と述べたが、実際に防衛省が申し入れたのは安全管理や再発防止の徹底で、飛行停止ではなかったとしました。そして、小野寺防衛相は26日の記者会見で、当初の答弁が「正確」と説明。「中止を申し入れ」との首相答弁は「さまざまなやりとりの中でお答えをされたんだと思う」と語りました。

「飛行中止を申し入れ、中止させた」と胸を張り、実際は原因究明と再発防止の申し入れだったとは、呆れたものです。これは国民を愚弄する、明らかなウソの答弁だったのではないのでしょうか。

各地のとらえ方

秋田 安倍9条改憲反対、陸上イージス配備撤回

秋田県憲法センターは19日、秋田市のJR秋田駅前で「隠ぺい・改ざん・国政私物化」安倍政権即時退陣を訴え、市民集会を開き、「安倍はやめろ！」などをコールし、デモを行いました。

虻川代表は、「私たちは、国民・国会・憲法ないがしろの悪法強要を続ける政権、『安倍首相』あなたが辞めるまで行動を辞めない。声を上げ続ける多くの人たちの希望と憲法の力を信じ、戦争法を廃止するまで頑張ろう」と呼びかけました。

「ミサイル基地『イージス・アショア』を考える県民の会」代表委員の川野辺英昭さんは、配備反対統一署名の国会提出を報告。「防衛省は17日に住民説明会を初めて開いたが、不安や疑問に何一つ答えない。配備ありきの説明に批判の声が上がった。力を合わせ県民の世論を高め、調査・着工を阻止しよう」と訴えました。



富山 「働き方改革」やめろ等と訴えた38回目のレッドアクション

2015年5月から38回目を数える富山のレッドアクションが17日、富山駅前広場で行われました。晴天のなか、40人の赤い服を着たり赤いパラソルをさしたりしてスタンディング。横断幕やプラスターを掲げて「安倍政治許すな」「9条改憲反対」などをアピールしました。

参加者全員で時々コールしながら、一言ずつスピーチ。「月100時間の残業を認める、過労死につながる『働き方改革』はやめるべきだ」「米朝対話で平和が前進。拉致や非核化など安倍首相も積極的に動かないと解決しない」など切実な訴えが続きました。インターネットで富山のレッドアクションを知り、金沢市から駆けつけたという男性も発言。「今、安倍暴走を止めなければ戦前のようなことになる」と警告しました。

スタンディングの後、デモ行進を行い、富山駅周辺を「過労死法案強行するな」「ウソつき、改ざん、許さない」などとコールし、道行く人に訴えました。

山梨 県内の3000万人署名が12万人超に

「戦争させない・9条壊すな！山梨行動実行委員会」は19日、JR甲府駅南口で戦争法廃止などを訴える毎月定例の集会を開きました。日本共産党、国民民主党などの野党の代表と市民約80人が参加しました。

リレートークで共産党の花田仁県委員長は米朝首脳会談の歴史的意義を強調し、「市民と野党の共闘で改憲狙う与党を少数に追い込み新しい政治をつくりましょう」と訴えました。

若者団体の山梨デモクラシーアクション代表は「権力の私物化、公文書の改ざん、ウソをつく政治、いいかげんにしろという言葉しか出ない。安倍首相がしつこく辞めないなら僕たちもしつこく怒りをぶつけましょう」と話しました。

山梨市民アクション代表は、3000万人署名が県内で12万人を超えたと報告。「こうした運動が今国会での発議を許さない力となった。さらに署名が届いていない人に広げましょう」と訴えました。

集会後、参加者は「戦争反対」「憲法守れ」などとコールして市内中心部をデモ行進しました。



宮崎 那覇前で安倍政権の退陣を求める集会を開催

戦争法の廃止を求める宮崎連絡会と宮崎県労組会議は19日、宮崎市の山形屋デパート前で安倍政権の退陣を求める集会を開きました。

宮崎県労連の山田希一郎議長は『働き方改革』一括法案には残業時間を月100時間まで認める中身が盛り込まれている」と批判。過労死や精神的に追い込まれ仕事ができなくなる人をなくすため、長時間労働を減らして行こうと訴えました。

政党から日本共産党の伊豆康久市議、立憲民主党の渡辺創県議、社民党の岩切達哉県議があいさつ。伊豆市議は「市民と野党の共闘で安倍政権のうそとつわりの政治を終わらせよう」と呼びかけました。

参加した男性(47)は「安倍政権は森友・加計問題など正直に話すべき。大企業ではなく国民に目を向けた政治をしてほしい」と話しました。

長野・松川村 おそろいの赤い帽子で新婦人のタペストリーを持って宣伝

北アルプスのふもと、長野県松川村で19日、新日本婦人の会松川村支部が3000万人署名に取り組みました。参加した5人はおそろいの赤い帽子で新婦人のタペストリーを持って宣伝。安曇野ちひろ公園や周辺で、観光客や親子連れに声をかけ、署名をお願いし、短時間で15人の署名が集まりました。

県外からの観光客も多く、「美術館にあったので、署名書いてきましたよ」という女性もいました。助手席の窓を開け「俺も署名するよ」と、車から声をかけた男性は「アベに早く辞めてもらいたい。最低の総理だ」と署名に応じました。

新婦人の松川村支部が公園で行う署名行動は5回目です。美術館が冬期休館の間は公園に訪れる人が少ないので中止し、4月からは毎月19日にスタンディングと併せて実施しています。

谷口まゆみ事務局長は、3000万人署名とヒバクシャ国際署名の行動を「継続したい」と語りました。

山形 「安倍9条改憲NO! やまがた県民の会」200人でデモ行進

「安倍9条改憲NO! やまがた県民の会」は21日、山形市で集会を開催し、「9条守れ! 政治の私物化は許さない! ウソだらけの政治を変えよう!」のスローガンを掲げ、参加した200人が市内をデモ行進しました。

小口裕之同会共同代表は集会で「3000万人署名運動の県内の署名数が12万人を超えました。安倍政権を退陣させ、平和憲法を未来に残そう」とあいさつしました。そして、県内の4野党と舟山康江参院議員秘書が連帯挨拶をしました。

国民民主党山形県総支部連合会の沖澤一博幹事長が「野党が協力して国民を愚弄する安倍政権を倒そう」。社会民主党山形県連合の木村正弘副幹事長が「延長国会での悪法ごり押しに地方から怒りの声をあげよう」と訴えました。新社会党山形県本部の佐藤光弥副委員長は「安倍政権による働かせ方法案、9条改悪、放射性廃棄物など、上から目線の強行は許されないと訴えました。

日本共産党の本間和也県委員長は「財界のための働かせ方大改悪法案、カジノ法案を廃案にし、森友・加計問題などの疑惑を徹底解明して安倍政権退陣にむけて全力を尽くす。来夏の参院選挙では、市民と野党の共闘で勝利しよう」とあいさつしました。

千葉 3月13日からほぼ連日、100回目のスタンディング

船橋市で「船橋でも声をあげたい」と一人の女性のつぶやきから始まった「森友・加計疑惑徹底究明&安倍内閣退陣を求めるスタンディング」が3月13日からほぼ連日、JR船橋駅南口で行われ、23日で100回目を迎えました。

雨の降る中、一人、二人と時間が経つにつれ、参加者が増えて最終的には10人がスタンディング。「安倍さんはやめたほうがいいよ」と語る男性や、関心を示した女性(56)は、「今日で100日なんですか、続けることが大事ですね」と話すなど、駅利用者の注目を集めました。

参加者は思い思いの気持ちを書いた「安倍政権の退陣を求めます」「まともな政治を取り戻そう」などのプラカードを掲げ、リレートークで、「戦争を知らない子供たち」などを歌いながら、「安倍政権を一日でも早くやめさせたいと毎日立っています」「安倍内閣が退陣するまで声を上げ続けます」などと訴えました。

この日のスタンディングには、日本共産党の丸山慎一県議が参加しました。